

第31回 東京国際映画祭・国際交流基金アジアセンター特別賞受賞作品上映会

Screwing Event of "The Spirit of Asia Award by The Japan Foundation Asia Center"

上映&ホアン・ホアン監督トーク

Saturday, 1 February, 2020

Screwing of "Wishu Orphan" followed by Talk Session with Director Huang Huang

武術の孤児

2020年2月1日「土」

会場：アテネ・フランセ文化センター

入場無料「予約不要」——定員 130名「先着順」

住所：東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階

最寄り駅：JR総武線 地下鉄丸の内線 茗荷谷駅 / JR総武線 都営三田線 水道橋駅

プログラム

上映 15時——開場 14時30分

トークショー 17時10分——終了予定 18時20分

ゲスト

東京国際映画祭アジアの未来部門
プログラムディレクター

ホアン・ホアン監督×石坂健治



ホアン・ホアン 監督 プロフィール

1985年中国・安徽省出身。2016年、北京電影学院監督科修士コースに進学、18年に卒業。35ミリ短編作品「No Country For Chicken」が第62回ロカルノ国際映画祭「Leopards of Tomorrow」部門に選出され、映画ビデオ子幕賞を受賞。



(c) Dadi Century (Beijing) Co., Ltd

ASIA
center
JAPAN SOCIETY

TOKYO
INTERNATIONAL
FILM
FESTIVAL

主催：国際交流基金アジアセンター / 協力：東京国際映画祭

上映&ホアン・ホアン監督トーク

武術の孤児

「武術の孤児」 Wushu Orphan 「武林孤児」

監督：ホアン・ホアン 「黄璜」

2018年／121分／カラー／中国／北京語／日本語字幕付上映

監督、脚本、編集：ホアン・ホアン／チーフ・プロデューサー：グレース・チャン

プロデューサー：ワン・イチ／エグゼクティブ・プロデューサー：ダワン・シユエ

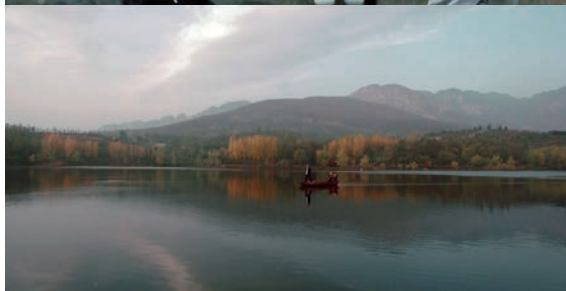
撮影監督：リウ・ヨシ／美術：モシ・シシ／音響：ゲイリー・チェン

音楽：フオン・ジン

キャスト：ジン・ジンチン／ホウ・ユンシャオ／リウ・ジン／マー・ジョシヤン

シー・ジー

1990年代後半の中国内陸部。中国武術を専門に教える中学校に国語教師として赴任したルー・ヨシホンは、武術の修行が中心の校風に、いわゆる文系教師として戸惑いながら教室での授業を行うが、上手くないばかり。そんな彼の心のマドンナは保健室に詰める女医アン・ランだが、彼女の気持ちは分からない。逆に悩みのタネは、武術の修行になじめず脱走を試みるいじめられっ子のツイシヤンだ。あるときツイシヤンが再度の脱走を敢行して町の家族の元をめざし、事態が動き始める……。四季のパートに分割された本作は、それぞれの冒頭にカンフーの達人が旅を続ける幻想的なシーンを挿入し、またブルース・リー、ジャッキー・チェン、ジェット・リーの言及があるなど、中国武術への愛が感じられる作りとなっている。ホアン・ホアン監督は北京電影学院の監督科に学び、本作で監督デビューを果たした期待の新鋭。



(c) Dadi Century (Beijing) Co., Ltd

ASIA
center
JAPAN FOUNDATION



beyond
2020

お問い合わせ：film@jp.go.jp
主催 国際交流基金アジアセンター
<https://jac.jp/culture/>
会場 アテネ・フランス文化センター
東京都千代田区神田駿河台2-11
アテネ・フランス4階
03-3291-4339 (13:00-20:00)
<http://www.athene.net/culturalcenter/>

プログラム・タイムテーブル 2020年2月1日「土」
上映 15時——開場 14時30分
トークショー 17時10分——終了予定 18時20分
ゲスト ホアン・ホアン監督×石坂健治
※「武術の孤児」製作に携われた共同プロデューサーのホウ・シャンドン氏、スタッフのジョウ・シャオン氏も来場予定
国際交流基金アジアセンター 特別賞について
The Spirit of Asia Award by The Japan Foundation Asia Center

東京国際映画祭「アジアの未来」部門において、文化の違いを越え、国際的な活躍が期待される新鋭監督に贈られます。第31回東京国際映画祭では、審査委員はジェミー・スク（イギリス）日本・韓国・東南アジア担当、ビート・テオ（オーストラリア）俳優・映画監督、山下敦弘（映画監督）の3名が担当。受賞したホアン・ホアン監督にはトライバルととも、副賞として日本短期滞在の機会が贈呈されました。

